

沖縄でいま思うこと



中野 夢

(染織家、沖縄 YWCA 会員)

私は染織家として生計を立てながら琉球笛奏者として古典や現代の音楽に関わって、今の沖縄に生きています。

大阪生まれの私は京都で色を研究していました。色が溢れ、色が価値を生む材料になり、時の権力者は色でその権力を広くイメージ付けました。その根源的な色の世界を知り同時に、人が色を初めて手に入れた感動を理解したいと思ったのです。そして小さな島に残された技術と布の切れ端に興味が尽きぬまま、現在に至ります。また、伝統音楽は、確立した当時の人の自慢のメロディや願い事、伝えておきたい事象などの明確な意思が感じられます。そのメロディに寄り添う琉球笛は竹に穴を開けただけという原始的な楽器でありながら、奏でる音の響きはどこか郷愁の念を抱かせ胸を打つのです。それらを現地で学ぶことは、季節感や感情、光の感覚を体験でき、今日まで技術を繋いでくれた土地への敬意を表しています。この仕事が沖縄という文化が次へ生きていくための一本の糸になることを期待して、日々向き合っています。

沖縄で暮らす人にとって「辺野古」は聞かぬ日のないキーワードです。ですが、私の周囲の同世代は心の中で反対を思いながら、高らかに声を上げることを迷っています。SNSなどで自由な発言ができる一方、仕事や人間関係の中で正直な発言ができない人も少なくありません。そのストレスは思考停止を誘発し、「必要悪」という意味を違えた言葉を多用し

たり、「中立」というありもしない立場へと引きこもろうとしているように見えます。それらは自分自身の思いを的確に表現する言葉が見つからないだけなのかもしれません。しかし選挙での圧倒的な答えは抑圧された中での精一杯の意思を感じ感動すら覚えます。そして、沖縄の伝統を身につけること、それが沖縄を知らしめる布石となるかもしれぬ、そのしたたかな思いは明らかに、私の抵抗の証なのです。

沖縄に生きることは、誤解をおそれずに言えば、差別を受ける側として暮らすことを前提として、アイデンティティを確認させられる行為です。沖縄の「沖縄人ウチナンチュである」というプライドは二面性をもっています。豊かな土地や文化への誇らしい気持ちと、対本土「ヤマトンチュ」となった時はある種の劣等感を避けるように差別化することで自身を守るシェルターとしての役割があります。

沖縄人でない私が伝統を継ぎ、沖縄の未来に意見することに、好意を抱く人もいれば危機感を抱く人もいます。基地運動の中でも面と向かい「(活動する今は)日本人の力を利用するが、沖縄に返還されたら日本人は出て行ってほしい」と言われたこともあれば、「ありがとう」と言われることもあります。どちらにせよ「よそ者なのに」という前提で行動を見られていることにより必然的に意思を強く持つ癖が付きまします。

不思議なもので、日本本土に行くと、沖縄側に立った視点の自分に気づきます。それは私が社会問題はその土地の立場に立った視点が必要だと考えてきたという理由だけではないでしょう。情報量の違いは明らかな問題意識の違いや偏見を生んでいます。時折、心も知識もない言葉で傷つき、無意味な論争となるのが切なくなります。批判しようとする人は何もしていない自分への批判を避けるため、何もできないことを沖縄に責任転嫁します。「問題の根底はその問題を自分の問題として考えきれない考え方にあるのだ」と、理解できないことにあるようです。

これらの溝がともに一つの問題解決に向かうための副産物であるならば、この差別や偏見を飲み込む勇気が必要なのかもしれません。問題が解消へ動き出した時、信じ合える関係となる活動を展開したいと願っています。



❖ 東方キリスト教会の
歴史に学ぶ
「イスラム国」・「ユダヤ国」

4月7日、アフタヌーン・ティーは、村山盛忠牧師を迎えて「中東世界からの視点—『イスラム国』・『ユダヤ国』のディアスポラ（難民離散者）」を主題に中東におけるイスラム教とキリスト教の歴史的関係をBC1300年にさかのぼって学び、ムスリムとキリスト教徒の歴史過程で築き上げた「共生」の歩みを知った。

しかし、1948年イスラエル建国で70万以上のパレスチナ人が故郷をなくし、難民になった。イスラエルが西岸のパレスチナ自治区との境界線に分離壁を建設、パレスチナ人の村落は分断されてしまった。難民となったパレスチナ人は故郷を訪問することができない。

過激派組織ISやアルカイダの行為は許されるものではないが、軍事力で戦うのは対症療法でしかなく解決には根源的な歴史背景を学ばねばと感じた。

日本政府のイスラエル寄りの外交政策、軍事費協力などに、私たちは目を向けていかねばならない。参加者54人。

(湯口 恵)

脇浜紀子さん
講演会

5月16日(土)「神戸発!グローバルとは何?」というテーマで、講師は読売テレビアナウンサー脇浜紀子さん。第1部は「外向き志向と現場主義で見つけた世界」。脇浜さん自身が、沖縄での戦争体験者や阪神淡路大震災の被災者への取材等の現場で感じたことを通して、実際に体験することがグローバル化につながることを、そして外に目を向けて多様な価値観を持つことの必要性を語られた。



第2部は、神戸YWCA学院日本語講師福井武司さんとの対談。日本語教育における多文化交流と、日本語を教える面白さについて大いに話が盛り上がった。約70人の参加者は、神戸YWCAが初めての方も多く、大盛況に終わった。

(桜井 かおり)

❖ 世界YWCAデー

4月18日(土)、今年も世界YWCAデーを祝って、世代の異なる16人が集まり、軽食会を行なった。

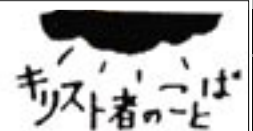
参加者にこれまでの活動、思いを語っていただき、一緒に活動する仲間として、お互いにリーダーシップを称え合い、思いを共有した。活動歴が浅い会員が集まる国際相互支援部にとって、毎年、この日は先輩方と交流できる貴重な機会だ。女性の地位が確立されていない時代に、活

動のために信念をもって奔走した話に驚かされた。今の時代でも難しいことがどうしてできるのか?まだまだ知りたいことがたくさんあるが、毎年タイムオーバーで終わってしまうのが残念だ。

先輩方の積み重ねてこられた歴史を知って、これからの神戸YWCAに繋がるように考える会になればいいと思う。

国際相互支援部以外の会員の方もぜひ、ご参加ください。

(小川 佐由理)



妻に倣ひて「天なる父」の
名呼びて朱夏

中村草田男

俳人の中村草田男の妻直子は夫に先立って亡くなった。妻は熱心なカトリック教徒であった。

て、神父に頼んで洗礼を授けてもらった。そして昭和五十八年八月五日に没した。

草田男は晩年、妻の留守にひそかに「天にましますわれらの父よ、願はくはみ名をあげさせたまへ」と「主の祈り」を唱えたという。

中村草田男、本名清一郎は父の任地、中国の厦門領事館で生まれ、のち松山中学、松山高校、東大国文科に学び、昭和八年以来、成蹊高校の教授となる。

「マタイ伝福音書」第六章六節に「なんぢは祈るとき、己が部屋にいたり、戸を閉ぢて、隠れたるに在す汝の父に祈れ。さらば隠れたるに見給ふなんぢの父は報い給はん。」とある。

俳句は水原秋桜子の指導を受け、「ホトトギス」同人として多くの秀句を詠んだ。

「降る雪や
明治は遠くなりけり」
「燭の灯を
煙草火としつチエホフ忌」
「シヨパン弾き了へたるままの
露万朶」
「万緑の中や
吾子の歯生え初むる」

「町空の
つばくらめのみ新しや」
「白墨の手を洗ひをる野分かな」
「降る雪や
明治は遠くなりけり」
「燭の灯を
煙草火としつチエホフ忌」
「シヨパン弾き了へたるままの
露万朶」
「万緑の中や
吾子の歯生え初むる」

「さきあげた句は第八句集『時機』にも入っていない晩年の作である。その数年前に草田男は妻に宛てて「自分のような者でも信仰に入らせてもらひたい」と書いていた。
のち、そのことを知った草田男の娘たちは草田男の死の前夜、意識不明の本人の意志とし

(笠原 芳光)

Peace Bridge (ピース・ブリッジ)

今年立ち上げた「ピース・ブリッジ」は、様々な「平和の橋」を架けたいと願って活動している。

まずは世代間の橋を！と、若い人から話を聞くことから始めているが、5月は国際協力の仕事でパレスチナに赴任される方の話を聞いた。そして、6月は「NGO間の橋」を、との思いで、被災地NGO協働センターと協力して会を持つ予定である。被災者支援で活躍されている増島智子さんから話をうかがう。皆さんもぜひご参加ください。 (寺沢 京子)

日時：6月26日(金) 18時30分～
場所：被災地NGO協働センター

イースター早天礼拝

4月5日、今年も神戸YMCA/YWCA 合同のイースター早天礼拝がもたれた。当日、雨天のため、例年の東遊園地に代わって、昨年新しく

待ち望んでいた 赤城修司さんの 写真集が出た！ ～ Fukushima Traces 2011-2013 ～



赤城さんは福島市内にある高校の美術教師だ。2011年の冬、ご家族で武庫川セカンドハウスを利用してくださったことが赤城さんとの出会いだった。当時からツイッターにコメントと写真を流しておられ、それらをまとめたものが、この写真集である。

赤城さんの写真は、福島で今も進行している「日常のなかの非日常」を淡々と切り取っていく。押しつけがましさは全くなく、しかし怒りの熱の高さに、見る側のこちらが声をなくす。「あとがき」も赤城さんらしさが溢れて必読。

神戸YWCA本館ロビーで取扱中。ぜひお求めください！ (西本 玲子)

オープンした神戸YMCAファミリーウェルネスセンターが会場となった。参加者は98人。

坂口新伝道師(日本基督教団神戸聖愛教会)が、アイドルグループの

楽曲になぞらえた「会いたかった、イエス！」という説教題でメッセージをしてくださった。復活したイエスに「会いたかった」という思いを新たにするとした。

(野村 春美)

2015年度 運営委員担当表

- | | |
|---------------|------|
| ● 運営委員会 | 鶴崎祥子 |
| ● キリスト教基盤部 | 野村春美 |
| ● 地域福祉部 | 谷合公江 |
| ● 国際相互支援部 | 西岡容子 |
| ● 平和活動部 | 斎藤明子 |
| ● 機関紙編集部 | 鶴崎祥子 |
| ● 被災者支援プロジェクト | 斎藤明子 |
| ● 定期会員集会準備委員会 | 宮田泰子 |
| ● 次世代プロジェクト | 未定 |
| ● パザー実行委員会 | 谷合公江 |
| ● 会員ケア委員会 | 鶴崎祥子 |

*井上序子運営委員は都合により辞任。

2015 神戸YWCA キックオフ・ミーティング

私たちの活動は、社会的に共感のもたれるものであり、また関わる一人ひとりにとってもやりがいのあるものとなっているでしょうか。

神戸YWCAの使命と目的のもと、改めて各活動の位置づけを確認し、新しい1年に向けてキックオフする1日です。

YWCAで活動している方は、全員ご参加ください！

日時：6月13日(土) 13:00～16:00

場所：神戸YWCA本館

ファシリテーター：川島憲志さん

(参画と協働をキーワードに、まちづくり・市民活動等の場づくり・人づくりに関する)



近年、歴史教科書の記述で日本の「加害」の歴史に関する部分を矮小化する動きが盛んであり、危惧を覚える。私たちの子ども世代が「加害」について直接話を聞ける機会はほぼなくなるだろう。

私は、「加害」の歴史を学ぶとともに、その歴史を伝え、学ぼうと努力してきた活動も振り返り、学ぶ必要を強く感じる。

(山本かえ子)

私が学校教育を受けた1980年代は、歴史教科書問題など、日本の「加害」の歴史について大きく取り上げられていた時代である。その社会情勢ゆえの過敏な「反応」だったのだろうか。そうすると、私たち世代は、アジア太平洋戦争から時を経て、「加害」の責任をストリートに受けとめることができず、環境にあった貴重な世代なのかもしれない。

小学生の頃、1990年前後のことである。毎年行なわれる夏の平和学習集会の際、一ヶ月前上の児童が731部隊のことを調べて紹介したことがあった。「いつもとは違ったことを話してみたい」といった単純な動機からで、報告は写真数枚を紹介しただけのとても簡単なものだった。しかし、そのとき先生たちの間にピリツとした「異様」な空気が流れていたのを、おぼろげながら覚えている。



小学生の頃、1990年前後のことである。毎年行なわれる夏の平和学習集会の際、一ヶ月前上の児童が731部隊のことを調べて紹介したことがあった。「いつもとは違ったことを話してみたい」といった単純な動機からで、報告は写真数枚を紹介しただけのとても簡単なものだった。しかし、そのとき先生たちの間にピリツとした「異様」な空気が流れていたのを、おぼろげながら覚えている。

(注) 場所の記載のないものはすべて神戸YWCA 会館

●わいわい科学クラブ (小学生対象)

理科実験工作教室が変わりました! ゆっくりじっくり科学で遊べるよう、本館では2部制になりました。分室では、ものづくりをして、できあがったら楽しんで、次の人と交替。1回あたり10人ほどの3部制にします。小学生のみなさん、わいわい科学クラブでいっしょにやってみませんか?
ボランティアサポーターも募集しています!
6月20日(土) 11時45分~12時45分
「電気パンとくあつという間のゼリー」をつくろう」
場所 神戸YWCA 分室
7月18日(土)
「ドライアイスの実験をたのしもう2015」
場所 神戸YWCA 本館
① 10時~11時30分 ② 13時~14時30分

要申し込み。
参加費 1回 200円

●文学講座

『徒然草』を読む
6月16日(火)・7月21日(火)
13時30分~15時30分
講師 笠原芳光さん(京都精華大学名誉教授)
参加費 1,500円(1回)

●7月のアフタヌーン・ティー

「憲法前文より憲法9条を考える」
7月7日(火)
13時30分~16時
講師 熊野勝之さん(弁護士)
参加費 800円

■運営委員会報告

(4月)【報告】理事会報告【議事】2015年度の運営委員会の働きについて▶今年度プログラム確認▶定期会員集会を終えて

(5月)【報告】理事会報告▶ネパール大地震募金開始について

【議事】グループオリエンテーションについて (宮田 奏子)

■理事会報告

3月24日(火)2014年度第5回理事会開催。出席理事6人、監事2人。2015年度事業計画案と予算案等を決議。

5月26日(火)第6回理事会開催。出席理事5人、監事2人。2014年度事業報告及び決算報告承認、他。

(寺内 真子)

■新入会員

土岐 淑子 (敬称略)

■賛助員

井上 たみ 井上 力 雀部 明子
千川 信子 三浦 哲朗
渡辺 敏夫 (敬称略)

■編集後記

季節は夏に向かおうとしているが、日本社会は冬に! 女性の声で春を取り戻そう!

(I・Y)

■学院だより

歴史ある神戸YWCAの日本語教育、また公益財団法人として現在行っている日本語の事業を一人でも多くの方に知っていただきたいと、広報に努めている。日本語教師養成コースでは、5月16日、アナウンサー脇浜紀子さんのご協力を得て、講演会および対談イベントを開催した。

日本語コースでは、昨年に引き続き、文化庁委託事業として、地域在住外国人のための無料講座「生活のための基礎日本語講座」を6月15日から開講予定。また、日本人向け「やさしい日本語」普及活動、共生を目指す地域でのイベントなどの企画も動き出している。

子育て中の外国人ママのためのプログラムも継続中。

8月3日から3週間、外国にルーツを持つ子どもたちのための「勉強に役立つ日本語」クラスを開講予定である。月1回の子どもたちの居場所づくり、毎週土曜日の学習支援も引き続き行なっている。多くの子どもたちに日本語を学ぶ機会を提供するために、今年度もみなさまの寄付によるご支援をお願いいたします。

(斎藤 明子)

■まごの手だより

昨年に引き続き、神戸市から中央区と灘区を委託されている産後ホームヘルプサービスは、昨年度1か月平均の利用者が10人、利用時間は63.3時間だった。

産後ヘルプは体調不良の母親が対象で、双子や、うつ病やシングルマザーの方の利用も多い。規定の10回終了後、自費での継続も増えている。養育困難で生活や乳児の成長に支障をきたすと養育支援ヘルパー派遣が市から決定される。0件の年もあったが、昨年からは3件ある。

急に依頼が入るのでヘルパーの手配をするのは大変だが、核家族の現状、孤立している母親の支援をするのはとても大事な仕事だと思う。

(まごの手産後ヘルパーコーディネーター・藤原道子)

■分室だより

分室で毎日活動している「わいわいランチ」、先日のメニューは鮭の塩麴焼き、若竹と落煮、鶏ミンチだんごのあんかけ、たけのこごはん。季節感がいっぱいである。調理のスタッフから手作りしたものを美しく詰めて配達するのは、ボランティ

アである。活気あふれる「わいわいランチ」だが、最近配食数が減っている。

高齢者だけでなく食事で困っている人に家庭の味のおいしいお弁当を届けたいと願っている。ランチの配達について、詳しくは分室へお問い合わせください。(大江 雅子)



本館ロビーがステキな空間に生まれ変わりました!

ゴーフル®
いいものは時代をこえて
生き続けます

神戸且月堂

本社 神戸市中央区元町通3丁目3-10 TEL(078)321-5555
URL <http://www.kobe-fugetsudo.co.jp>

(有) 佐野葬祭
代表取締役 佐野 睦 (日本基督教団 甲東教会会員)

いーく に みくに
0120-592-392 (24時間受付)

宗教を問わずあらゆるお葬儀をプロデュースさせていただきます

尼崎市潮江4丁目2-2
URL: <http://sanosousai.com>